

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076500125		
法人名	有限会社 ケアセンター すずらん		
事業所名	グループホーム すずらん	ユニット名	2棟
所在地	福岡県朝倉市杷木穂坂89番地の1		
自己評価作成日	平成30年9月29日	評価結果市町村受理日	平成30年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年10月10日	評価確定日	平成30年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲は、田・畑・果樹園、山並みや筑後川の流れが広がり季節の移り変わりが自然と目に見えています。押し車や車椅子の方が多く、散歩の時に季節の花や野菜、稲やブドウ、柿の実を見て楽しんで頂いています。地域の泥打ち祭り、よど祭りやお大師様などの行事にも参加し地域の方々との交流を深めるとともに、毎月、何らかの行事か外出を計画しホームでの生活を楽しく頂けるようにしています。また、御本人の出来る事はできるだけ御自分でやって頂けるよう支援しています。さらに、自立支援・重度化防止に資する介護を進めるため、病院の理学療法士の指導のもと、機能訓練を行っています。主治医やご家族との連絡を密にして、身体機能のレベルが低下した利用者様でも、出来るだけホームの行事に参加していただいたり、個別にドライブ等の外出の機会を設けるとともに、希望する方にはターミナルケアを行うなど、利用者様やご家族が「良かった」と喜んで頂けるようなケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームすずらん”の玄関に入ると、笑顔いっぱいの方々に出迎えて頂いた。リビングでは「塗り絵」に集中される方、リハビリの機器で階段昇降をされる方、職員との会話を楽しまれている方々など、温かい生活状況が伝わってきた。廊下や居室には季節の作品や写真が飾られ、廊下を歩きながら会話も弾まれている。ご利用者と共に、職員の方々も日々の生活を楽しまれており、楽しいアイデアや企画が増えている。日々の食事美味しく、畑で収穫した新鮮な野菜なども使われている。外食よりも「ホームのご飯が食べたい」と希望される方も多く、ご利用者の方々が「この食事は全て美味しいのよ」と教えて下さった。職員の生活状況に応じた勤務表が作られ、各資格手当を支給し、産体育休、介護休暇の体制もできている。研修は勤務扱いとして旅費を支給しており、毎月の研修の受講回数も多く、運営推進会議での報告も行われている。今後も家族や地域の方と協力し、理念にある「地域のぬくもりと明るい笑顔ですずらんライフ」を続けていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に唱和し意識しながら余裕を持って、入居者様に接するように努力している。	職員全員が結束し、「すずらん」の理念の実践に努めている。理念にある「地域と共に支え合い」、入居者も地域の一員として暮らされており、日々の生活の中でも「楽しくのんびりゆったりと」過ごせるように、職員主体で季節の行事を企画し、笑顔の多い日々になるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事に地域の方にも参加して頂き、地域の行事にも参加させて頂き、散歩など近所の方と会うと挨拶や会話をしている。	ホームのツマみ流しや餅つきの時に、地域の方や子ども達等と楽しむ機会が作られている。地元のお大師様参りや泥打ち祭り等に参加されたり、29年度は小学校の運動会の応援に出かけている。保育園児との交流も楽しまれ、ボランティアの方の慰問もあり、ひよっこ踊りを披露して下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症やグループホームの話をして、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開き、民生委員、老人会、市職員、利用者様、ご家族様に報告し、質問や意見交換を行っている。	ホームの取り組みや研修受講状況と共に、職員の1年間の目標と反省も報告している。外部評価(自己評価)結果も報告し、日々の頑張りを評価して頂いた。「身体拘束等適正委員会」も一緒に行い、行動障害等の意見交換も行われた。全ての家族に議事録を郵送し、会議内容を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所主催の研修に参加して、質問や助言を頂いたり、サービスの取り組みを説明し相談させて頂いている。運営推進会議に市担当職員に参加して頂き、質問援助等を頂きサービスの向上につなげている。	管理者が市役所に出向き、疑問点等を相談している。「身体拘束等適正化のための指針」の作成について相談し、助言指導を頂き、資料なども持参して下さった。空き情報を地域包括の職員に相談し、入居に関する情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の取り組みとして、ケアする上で意識して入居者様が自由に動けるように注意を払い行動していく。身体拘束禁止のパンフレットを目につく所に貼っている。平成30年6月に身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、職員研修にも取り組んでいる。	日勤の職員体制を増やしており、夕方、お気持ちが大不安になる場合は職員が寄り添い、散歩などをされている。施設長のアドバイスも多く、行動障害の原因を把握し、生活歴から原因を見つけることも多い。必要に応じて医師や家族と話し合い、ご本人が安心できる対応策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス担当者会議で棟ごとに話し合いを行い、毎日のケアの中でひとり一人が何が虐待なのか理解し解決していく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族にもパンフレットを準備し、説明している。 サービス担当者会議などで勉強会を行う。 ご家族様からの問い合わせに対応している。	制度に関する勉強を行い、新人職員にも伝えている。制度のパンフレットを準備し、入居時に管理者が説明している。入居後も制度の必要性の確認を行い、必要に応じて、複数の方々にキーパンソンになって頂けるようお願いしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に「利用契約書」「重要事項説明書」「重度化した場合における対応に係る指針」「個人情報保護に関する同意書」を説明し、不安に思うことや疑問に対する事等を回答している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、生活状況報告書、すずらん便り及びすずらん報告をご家族に送り、面会時に状況報告を行い意見を伺っている。また、玄関に意見箱を設置している。	家族の面会時は職員が笑顔で挨拶し、暮らしぶりを報告している。施設長も家族の思いに傾聴し、心配事や課題の解決に向けて真摯に対応している。メールや電話なども活用し、情報交換を続けており、運営推進会議等で外部の方に意見を伝える機会も作られている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス担当者会議等で意見を出し合い、ユニット長が意見を聞き管理者に伝える。 平成29年4月～11月の期間に、毎月、全職員から職員提案を提出してもらい、内容を評価検討し運営に反映した。	管理者と各ユニット長、全職員が結束し、ご利用者の笑顔と楽しみを増やす企画を考えている。行事や外出へのアイデアも多く、職員が積極的に外出の下見に出かけている。係の仕事の検討も行われ、毎月の勉強会やヒヤリハット対応の意見交換も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況により勤務表を作成し、仕事がやりやすいようにアイデアを出し職場の環境を整えた。 各資格手当、夜勤手当、介護業務手当を考慮している。産休育休、育児休暇、介護休業の体制もできている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別、経験の有無による制限はしていない。 年齢等の制限がなく研修に行っており、行事の担当を決めているが他の職員と協力してホールの飾り付け等に能力を生かしている。 実務者研修等に参加している。	管理者やユニット長は職員の自主性を大切にされている。ユニット長を交代制にしているユニットもあり、職員の意見も尊重しながら、広い視点で業務を見つめる機会になっている。介護福祉士を目指す職員もおられ、研修受講の機会を増やし、職員個々の長所を引き出すように努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の機会があれば参加し、研修報告書を作成し回覧している。 職員同士が利用者様の業務中もご利用者様の行動を把握し情報交換を行っている。	管理者が毎年「事業主人権問題研修会」等に参加し、「差別をしない」等の伝達が行われている。言葉遣いへの注意も行われ、ご利用者の行動の背景を分析する姿勢を職員に伝えている。優しい職員が多く、日々丁寧なケアが行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のため、初任者研修・実務者研修や興味のある研修に参加できるようにしている。研修に参加して、他職員に必要な研修報告書としてまとめて、いつでも閲覧できるように提供している。資格所得援助金制度を設け職員の資格所得を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会、全国グループホーム協会、朝倉介護保険事業者協議会や市町村、施設などの行事にも参加し、意見交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族の了解を得て、ご本人様と面談を行い、主治医、ケアマネジャーやソーシャルワーカーなどから情報を聞き、施設の会議で職員と共有し話し合いを行い、安心して入所して頂けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にアセスメントにそって情報を聞き取り、ご家族様の要望や不安を傾聴し、職員間で話し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様との面談をし、主治医、看護師、ソーシャルワーカーやケアマネジャーからの情報を確認しながら職員で話し合っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の情報に応じて出来る事、食器ふき、野菜の下ごしらえ、掃除、洗濯物たたみなどを職員と一緒にやっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に必ず状態の報告をし開示をしている。電話などでも状態報告を行い、月1回の生活状況報告書を家族に送り様子を知らせて頂くようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が若い時の話を聞き、馴染みのある場所や仕事などもお聞きし、その場面をいかしている。	日々の生活で生活歴等を教えて頂いている。受診の時に近所の方や知人の方と会話する機会もあり、年賀状や「暑中見舞い」に写真を添付して郵送している。馴染みのお店で買物をされる方や、家族の葬儀の送迎を職員が行い、家族から感謝の言葉を頂いた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや機能訓練に参加して頂き、会話する機会を作って居室で1人にならないように、会話をするようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様と施設外でお会いすると話しかけたり、かけられたりして、話をさせて頂いたりしている。また、亡くなられた方のお通夜、お葬式、初盆参りに行っている。死亡退所後も年賀状のやりとりをしているご家族様がおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議の中で、ご本人様の希望や要望を聞き、日常の会話で表情、行動の中から、本人の思いを受け取って、話しやすい雰囲気、場面を引き出している。	日々の願いと共に、年始や七夕の時も願いを伺っている。「美味しいものを食べたい」「いつまでも自分の足で歩きたい」等の願いを廊下に掲示しているユニットもあり、別のユニットでも職員間で共有し、記録に残している。意思疎通が難しい方も、家族からお好きなものを教えて頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族から話を聞き、生活情報や家族関係の情報を得て、ご本人様にとってプラスに生活出来る内容を考えて話し合っ		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活していく中で、心身状態によって変わるご本人様のペースで出来るように会話をしながら、状態に応じた介護をして、個別介護手順書にて把握するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態や課題などを職員から聞き、ご家族様にも意見を聞き、サービス担当者会議に意見をまとめ、入居者様が楽しめること、出来るようなことをプランにあげている。また、ケアプラン実行表でチェックし担当者が評価している。	ご利用者の要望を把握し、家族と共有している。心身状況の変化が見られた時は医師から指示を頂き、計画を変更している。個別介護手順書も作成し、散歩や買い物、洗濯物たたみ、果物収穫等と共に、30年度から筑後温泉病院の理学療法士からアドバイスを頂き、リハビリを続けている。	今後も認知能力の評価を行うと共に、把握できた要望を記録に増やしていく予定である。30年から生活機能向上加算を取られており、理学療法士が行った評価内容を確認し、具体的なリハビリ内容とリスクを共有する予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や入居者様の状態をみて、気づいたことを職員で共有し、申し送り時に気づいたことや体調変化などを伝えている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の病院受診や生活していく上で足りない物などを、ご家族様が買ってこられない時は、施設で準備をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事には子供会、保育園、地域の方、民生委員、老人会の方などを招待し、生活の様子を見て頂いたりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望を聞き、定期的に健康診断に行ったり、体調が悪い時などはかかりつけ医の受診をして、家族と相談しながらその都度対応している。	希望の医療機関で受療できており、看護師が通院介助をしている。医師の往診があり、24時間体制で連絡を取る事ができる。体調の変化も医師に報告し、日々のケアや薬の調整などに繋げている。必要に応じて、精神科医に症状の相談を行い、アドバイスを頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態で気づいた時は、その都度、看護師に報告し、入居者様が適切な処置を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にお見舞いに行ったり家族とも連絡をとり、入居者様の状態を病院の看護師に聞いたり、ソーシャルワーカーと連絡を取り入院中の状態を把握している。 退院後もスタッフ全員が情報を共有し家族にも連絡している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医も一緒に相談し、ご本人様やご家族の意向を聞いた上で、出来る限り対応できるよう職員全員で情報を共有し、ターミナル同意書や緊急連絡先の記入をいただいている。	入居時に「ターミナルケアの体制」や「医療連携」等を説明している。「ここで最期まで」と希望する方が多く、体調変化時はホームの看護師に相談でき、医師の指示で点滴等も行われ、訪問看護師との連携もできている。職員全員で情報共有し、ケア内容の検討を続けている。体調に応じて随時話し合い、誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、目につくような所に置き、職員ひとり一人がシュミレーションを行い、分からない事があれば看護師や主治医に聞いたりして、入居者様の状態に応じた対応が取れるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の避難訓練や、年2回の消防署立会の訓練を行っている。非常食や必要な物をキャリアバックに入れて準備し、定期的に確認している。	毎月の訓練を続けている。元消防団の職員も複数勤務し、地元の消防団との交流もある。自家発電で上水道が供給でき、非常食を常備し、避難時の持ち出し用キャリアも準備している。穂坂区と「非常災害時等に関する協定書」を締結し、地域の方に災害マニュアルを渡されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを大切にしながら、声かけや会話を行って話しかけられた時は、すぐに傾聴するように心がけている。また、オムツ交換時などは居室のドアを閉めてプライバシーを損ねないようにしている。	ご利用者の日課を理解し、ご本人のペースで生活できるように努めている。言葉遣いも配慮し、ご利用者の性格や生活歴を理解した関わりを続けている。オムツ交換時やトイレ誘導時の声かけは小声で行い、パッド交換時も優しい声かけをしている。ケアの時は居室のドアを閉めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の立場を考えて、ご自分の思いで自己決定が出来るように声かけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどへの声かけは行いが、入居者様ひとり一人のペースに合わせて、1日1日を楽しく生活していただけるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に来ていただき、離床後は髪をいたり目やになどを拭いたりしている。また、洋服の上下の色合いなどや、季節にあった服選びなども気をつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べてみたい物を尋ねたり、季節に応じた料理を提供している。食後の片付け、テーブル拭きを手伝っている。	ホームの菜園の野菜等を使い、季節の料理が作られている。流動食の方も食材に応じたミキサー食を準備し、嚥下状況に応じた介助がされている。ご利用者は、外食よりもホームの食事を希望され、「この食事は全て美味しい」と好評である。収穫したニンニクと葱を揃える作業等をして下さっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合った食事形態にし、食べる時に使うスプーンなども、形・大きさを入居者様に合った物を利用している。水分量なども1度に飲めない方は何度かに分けて飲んで頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯を磨ける人は磨いて頂き、義歯は職員が見守りしながら磨いて頂き、夕食後にはポリドントにつけるようにしている。出来ない方は職員が介助し、口腔内ウェットティッシュを使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て声かけをしトイレ誘導を行い、排泄記録を職員が把握できるようにしている。立位が不安定な方においては、二人介助にてトイレでの排泄を支援している。	職員は、「おむつの当て方」などの研修会に参加している。布の下着(パット)を着用し、排泄が自立している方もおられ、必要に応じて個別誘導を行い、失禁が減っている。夜間も安眠状況を確認し、必要に応じて誘導している。立ち上がりや立位ができるように生活リハビリを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食物を取り入れたり、水分を取って頂きながら、体操や体を動かす事をして頂いたり、腹部マッサージを取り入れたりしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っているが、入居者様の気分や体調に合わせて対応している。体調不良で入浴が出来ない人は、清拭、ドライシャンプーを行っている。	お風呂好きな方が多く、固形石鹸を使用している方もおられる。入浴中は会話を楽しまれ、「まだまだ歩きたい」「自分で洗いたい」等の要望も聞かれている。体調に応じて2人介助も行われ、足浴も日常的に行われている。散歩の時に柚子を収穫し、柚子湯を楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室やホールのソファなど、ご本人様が好まれた所で休んで頂いている。体調不良の方には、和室などの職員が目につく所で休んで頂き、温度調節も行い気持ちよく眠れるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人のファイルに挟み、いつでも目を通せるようにして、薬の変更がある時も申し送りして注意事項や副作用は周知徹底している。錠剤で飲めない入居者様には、つぶしたり、トロミに混ぜて服用して頂く。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が出来るモップかけ、洗濯物たたみなど家事が得意な方は職員と一緒に話をしながら野菜の下ごしらえをおこなっていたき、歌が好きな方は職員と一緒に歌っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出を考え、入居者様の希望に合わせて計画を作成している。散歩も楽しみを持っていけるようにミカン狩り、柿狩りに行っている。希望に応じて買い物や外食にも対応している。	職員は常に「次の外出は・・・」と楽しい企画を考えており、事前の下見も入念に行われている。日々のお散歩を楽しまれ、季節に応じた花見(桜・紫陽花・ひまわり・つつじ等)を行い、おやつやお弁当を食べられている。ドライブや買い物と共に、高塚地蔵に行かれたり、ホテルでの食事も楽しまれた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難であるので、必要物品は施設で立て替えたりしている。個人のお金の管理はご家族が行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの絵ハガキなどはご本人様に渡し、電話などもご本人様におつなぎし楽しそうにお話をされている事が見られる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓テーブルには季節の花を飾り、廊下、ホールにも季節感のある飾り付けや行事等の写真を飾るように心がけている。飾り物について会話をし、室内で楽しく過ごせるようにしている。	装飾担当の職員が季節に応じた飾り付けをされている。行事の写真も掲示し、会話のきっかけになっている。ご利用者の関係性に配慮し、テーブルの向きを変えたり、座席の変更も行われている。換気も行われ、24時間の天井ファンも使用し、臭気対策に努めている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの好きな所に座って頂き、入居者様同士で会話をされたり、職員とも会話をしたりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓から外の景色(花、野菜、柿の木、キンカンなど)を見て頂いたり、室内には家族の写真などを飾ったりしている。	居室から柿の木やキンカンの実などを眺める事ができる。家族が抱き枕を持参して下さる方もおられ、家族の写真も貼られている。タンスや時計、ぬいぐるみ等も持参し、季節の飾りつけもされている。ベッドの下に木を置いて、高さ調整が行われており、介護職の負担軽減に繋げている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの好みや身体状態に合わせて、畳の居室にしたり、ベッドを使用して車椅子を使用出来るように居室の空間を広く取った居室環境を作っている。また、転倒防止等のため、センサーマットを使用し安全確保を図っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				